

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教 職 論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>教職は（保育）子どもの成長発達に指導、援助する仕事である。そのため子どもの学ぶ意欲を高め、知的好奇心を醸成し、人間関係を豊かにする授業を創り出すことが教職論の重要な目標である。教職者は保育への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき保育教育のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図らなければならない。</p> <p>《到達目標》</p> <p>①教職者（保育者）の役割と倫理について理解する。②教職者（保育者）の専門性について理解する。③教職者（保育者）は幼児の発達と成長を理解する。④教職者（保育者）は目標・ねらい・内容を理解する。⑤教職者（保育者）は法的、制度的な位置付けの理解をする。⑥教職者（保育者）は家庭や小学校との連携を理解する。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>本授業は望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。</p> <p>具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職育の意義・教職者とは何か</li> <li>2. 教職者に求められる資質・能力</li> <li>3. 教員養成の歴史</li> <li>4. 教職者資質と役割</li> <li>5. 指導計画（保育のねらい・内容） （幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）</li> <li>6. 教職者の仕事</li> <li>7. 教職者の研修</li> <li>8. 教職者の職場環境</li> <li>9. 教職者の任用と服務</li> <li>10. 先人から学ぶ教職論</li> <li>11. 教職者の制度的な位置付け</li> <li>12. 教職課程と評価</li> <li>13. 家庭や小学校との連携（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）</li> <li>14. 教育実習の目的や内容</li> <li>15. よい教職者になるために</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「教職論」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「教師論・保育者論」生田貞子、水田聖一編著（三見書房）（ISBN：9784783060635）  「教育の方法と技術」柴田義松著（学文社）（ISBN：9784762010316）  「教職論」佐藤徹編著（東海大学出版会）（ISBN：9784486018674）  「教職概論」第4次改訂版 佐藤晴雄著（学陽書房）（ISBN：9784313611399）</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教 育 原 理	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
教育の思想とその作用、また我が国の教育制度と歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めることを目標とする。		
<b>授業の概要</b>		
授業では、「教育」全般に関わる様々なテーマを扱う。子どもの発達、保育・教育の法制度、教育課程と教育方法、教育の歴史、といった分野について基本的な知識を習得し、みずから今日的課題と今後の展望について考察できる力の育成をめざす。		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ教育を学ぶのか（専門家としての心構え）</li> <li>2. 教育・保育とは何か（理念と意義）</li> <li>3. 教育・保育とは何か（教育と児童福祉の関連性）</li> <li>4. 教育・保育の作用（発達の段階と課題）</li> <li>5. 教育・保育の作用（教育計画と保育内容：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」）</li> <li>6. 教育・保育の思想（ソクラテス、コメニウス、ペスタロッチ、ルソー、ヘルバルト、他）</li> <li>7. 教育・保育の思想（フレーベルと幼児教育、デューイの児童中心主義、ブルームと教育評価）</li> <li>8. 教育・保育の制度（教育法規と制度の基本）</li> <li>9. 教育・保育の制度（保育所と幼稚園）</li> <li>10. 教育・保育の制度（学校教育と教師論）</li> <li>11. 教育・保育の制度（諸外国の教育制度）</li> <li>12. 教育の歴史の変遷（江戸時代～明治：近代公教育制度の成り立ち）</li> <li>13. 教育の歴史の変遷（大正～昭和：戦前の教育と子どもの生活）</li> <li>14. 教育の歴史の変遷（昭和～平成：戦後教育の特徴と今日の教育改革）</li> <li>15. まとめ：教育と現代社会（専門家としての使命と課題）</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「教育原理」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
<b>参考書・参考資料等</b>		
特になし		
<b>学生に対する評価</b>		
学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教育心理学	2単位	レポート・科目試験・スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく学問である。

本講義は、発達・学習・人格・教育評価など教育心理学の基礎的知識を習得し、これらの知識を専門家として保育実践に生かす力を担保するものである。

#### 《到達目標》

1. 発達・学習・人格・適応・評価という教育心理学の基礎について、その概要を説明できる。
2. 教育・保育場を心理学的観点から分析し、保育実践に応用できる。

### 授業の概要

教育心理学の主な領域は、発達、学習、適応、評価から成り立っている。各領域に満遍なく触れながら、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。

学習や動機付け、人間関係、教育評価といった保育実践における理論的背景について、子どもの発達の特徴を踏まえて解説する。

### 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

#### 【通信】

1. 教育心理学とは何か
2. 発達の原理と発達段階
3. 発達段階(1) 新生児期と乳児期
4. 発達段階(2) 幼児期
5. 記憶と学習
6. 学習指導
7. 発達障害とその支援

#### 【面接】

1. 各発達段階における発達課題
2. 発達と遊び
3. 学習理論
4. 学習の動機付け
5. パーソナリティ理論
6. 適応と欲求
7. 防衛機制と不適応行動
8. 教育の評価と測定方法

### テキスト

「教育心理学」(配本テキスト)

「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)

「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)

「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考書・参考資料等

「史上最強図解よくわかる発達心理学」林洋一著(ナツメ社)(ISBN:9784816349324)

### 学生に対する評価

#### 【通信授業】

学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。

科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する。

#### 【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	40%	保育現場に立つ者として、積極的に教育心理学の理論を取り入れようと学ぶ姿勢を基準とする。
課 題		
そ の 他		
単位認定試験	60%	教育心理学の理論を、保育の実践と結びつけて理解・考察出来ていることを基準とする。
特 記 事 項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
発 達 心 理 学	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
発達心理学に関する基礎的事項について学び、保育実践に活かせる知識を得る。		
<b>授業の概要</b>		
基礎的な理論をベースに、保育活動に重要な時期について重点的に学びつつ、発達心理学全体についても概観する。		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達心理学の理解：児童心理学から発達心理学へ</li> <li>2. 発達心理学の意義と活用：発達心理学の基本的知見から考える</li> <li>3. ピアジェの発生的認識論（シエマ）と認知発達段階</li> <li>4. ピアジェの認知発達段階：ピアジェの設定した実験から分かること</li> <li>5. 発達はどうのように起こるか：遺伝説と環境説、それらの複合説について</li> <li>6. 乳児期の発達：反射と表象の形成</li> <li>7. 乳幼児期の発達：愛着の形成と発達（動物の社会形成から）、及びスピッツによる微笑の発達</li> <li>8. 幼児期から児童期の発達：運動・言葉・情緒・遊びの発達、社会性の拡張</li> <li>9. 児童期・青年期の発達：社会性の拡張と、アイデンティティの確立</li> <li>10. 成人期の発達：親密性の確立と、現在の社会から見る青年期の課題・人間関係の課題</li> <li>11. 壮年期・老年期の発達：人格の完成と、死の受容</li> <li>12. ハヴィガーストおよびエリクソンの発達課題から見る生涯発達心理学</li> <li>13. 発達心理学と教育学の関連：児童の発見から学校への適応まで</li> <li>14. 保育に活用できる発達心理学：発達課題、発達段階の理解による保育計画</li> <li>15. 発達の障害を捉えるための発達心理学：心の理論課題等の理解から見る発達障害</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「発達心理学」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
<b>参考書・参考資料等</b>		
史上最強図解よくわかる発達心理学 林洋一監修（ナツメ社）（ISBN：9784816349324）		
<b>学生に対する評価</b>		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教育課程論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるかを理解することを目的とする。</p> <p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。</li> <li>2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に習得する。</li> <li>3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体像を動的にとらえ理解する。</li> <li>4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>どのようなことを大切にして（教育・保育目標）、どのような方法で（教育・保育方針）、どのようなことを（教育・保育内容）、どの時期に（教育・保育機関）していくかという全体計画が教育課程・保育課程である。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方</li> <li>2. 保育カリキュラムの意義と必要性</li> <li>3. 保育カリキュラム編成の前提・基盤</li> <li>4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方</li> <li>5. 保育計画の基本</li> <li>6. 3歳未満児の発達と保育内容</li> <li>7. 園生活と長期の指導計画</li> <li>8. 短期指導計画の意義・作成</li> <li>9. 保育の実践と観点表</li> <li>10. 学びつなぐ幼・保・小連携カリキュラム</li> <li>11. 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く</li> <li>12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性</li> <li>13. 多文化保育のカリキュラム</li> <li>14. 総合施設におけるカリキュラム</li> <li>15. 信頼される園づくりと学校評議員制度</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「教育課程論」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（フレール館）  「保育所保育指針解説書」（フレール館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「教育課程・保育計画総論」田中亨胤、佐藤哲也著（ミネルヴァ書房）（ISBN：9784623047161）</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>保育内容総論</b>	1単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>保育所や幼稚園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。</p>		
<b>≪到達目標≫</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針、教育要領、教育・保育要領の各章のつながりを読み取り、保育全体的な構造を理解する。</li> <li>2. 子どもや子どもの発達の特性や発達過程をふまえ、観察や記録の観点を修得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。</li> <li>3. 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。</li> <li>4. 保育内容の歴史の変遷から保育をめぐる現代的な課題を学ぶ。</li> <li>5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な事例をもとに解説する。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容とは <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、幼稚園における保育内容について</li> </ul> </li> <li>2. 保育内容の歴史と現在 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷について</li> </ul> </li> <li>3. 子どもの発達と保育内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達の特性と保育内容について</li> </ul> </li> <li>4. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期にふさわしい生活について</li> <li>・ケアと保育内容について</li> </ul> </li> <li>5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力の基礎をはぐくむ保育について</li> </ul> </li> <li>6. 保育課程と指導計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育計画について</li> <li>・保育課程の編成と指導計画の作成について</li> </ul> </li> <li>7. 保育の評価と記録 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の評価と保育の記録について</li> </ul> </li> <li>8. 保育内容の現代的課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者支援について</li> <li>・健康保育・安全保育について</li> <li>・保幼小の連携について</li> </ul> </li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「保育内容総論」(配本テキスト)  「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)  「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
特になし		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと健康	1単位	スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体的基础を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育面で子どもの発達をどのようにとらえ、どのような内容について、どのように指導し援助するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うことを目的とする。

#### 《到達目標》

1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようになる。
2. 健全な発育・発達を阻害している健康問題を認識・考察し、健康保持の生活についてアプローチしようとする力を養う。
3. 運動遊びを理解し、発達に合わせて適切な内容を選ぶことができる。
4. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための援助及び指導ができるようになる。
5. 安全教育を理解し、管理及び指導の方法がわかるようになる。

### 授業の概要

乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。

### 授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 領域「健康」の意味（保育所保育指針・幼稚園教育要領・  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）
2. 乳幼児の心身の発育・発達
3. 乳幼児の運動遊び
4. 基本的な生活習慣の形成
5. 子どもの遊びと健康
6. 安全教育と安全管理
7. 健康と自然環境
8. 保育内容「健康」のまとめ

### テキスト

- 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）  
「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

### 参考書・参考資料等

担当教員が指示する

### 学生に対する評価

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。
課 題	20%	補助評価シート（ワークシート）を用いたプレゼンテーションの内容、発表姿勢を基準とする。
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	60%	授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかと基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと人間関係	1単位	スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。しかし、それは形式的で表面的な浅い付き合いで終わってしまうことも多い。また、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。子どもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。

#### 《到達目標》

1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて説明できる。
2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる。
3. 養育者・保育者・地域の人々など、子どもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。

### 授業の概要

子どもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していきます。

また、保育者としてどのように子どもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係性を築いていくのか、さらにはこども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していきます。

### 授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 保育の基本と人とのかかわり
  - ・人とのかかわりの基礎を育てること／領域「人間関係」のねらいと内容
2. 乳幼児期における人とのかかわりの発達
  - ・乳児期の発達と人間関係／幼児期の発達と人間関係
3. 遊びのなかで育つ人とのかかわり
  - ・人とのかかわりと遊び／遊びの中での人間関係
4. 人とのかかわりを育てる保育の実践
  - ・人とかかわれない子どもたち／人とかかわる力が育っていくプロセス
5. 人とのかかわりを育てる保育者の役割
  - ・モデルとしての保育者／対話者・援助者としての保育者
6. 人とのかかわりが難しい子どもへの支援
  - ・人とのかかわりが難しい子を支援する／さまざまな連携
7. 園、家庭、地域の生活と人とのかかわり
  - ・子どもの生活と人とのかかわり
8. 領域「人間関係」をめぐる諸問題

### テキスト

「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)

「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考書・参考資料等

保育内容「人間関係」森上史朗・小林紀子・渡辺英則編(ミネルヴァ書房)(ISBN : 9784623054985)



学生に対する評価

領域	割合	評価基準
受講態度	10%	授業はグループワークへの関心・意欲・態度や、ふり返しシートの内容によって評価する。
課題	40%	演習(1.2.3.4)のそれぞれに設定されたねらいが達成できたかどうか、ワークシートの内容で評価する。(一つの演習につき10%の評価)
その他		
単位認定試験	50%	領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解できているかどうか、また人的環境における関係性や、人間関係の支援について理解し、課題に正対して論文が構成されているかどうかで評価する。
特記事項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと環境	1単位	スクーリング
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>幼児期における教育は、「環境を通して行う」という幼稚園・保育所の特徴を踏まえ、子どもを取り巻く環境とのかかわりについて実践的に学ぶ。保育における環境の重要性やその意味を考えるとともに、幼児期の発達の特性を踏まえた環境構成や援助のあり方についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」のねらいや内容について理解する。</li> <li>2. こどもを取り巻く環境とのかかわりと、それに伴う子どもの発達の在り方の理解を深める。</li> <li>3. 保育実践における環境構成と援助のあり方について習得する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」から、人的・物的・社会的環境及び自然環境の持つ役割や意味、こどもの発達と豊かな環境とのかかわりについての知識を習得する。保育者として具体的な活動や事例を通して理解を深める。</p> <p>また、植物の栽培や、物・自然物とのかかわる保育演習を通して、こどもの生命への畏敬の念や探究心を養っていくことの重要性を習得する。</p>		
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の基本と領域「環境」の位置づけ</li> <li>2. こどもと自然環境とのかかわり（身近な自然・生き物とのかかわり）</li> <li>3. こどもと物的環境とのかかわり（遊具・園具・文字・数量）</li> <li>4. こどもと人的環境とのかかわり（保育者・友達・家族・地域の人々）</li> <li>5. こどもと空間とのかかわり（室内・戸外遊び・保育形態）</li> <li>6. 行事や地域環境とのかかわり・園外保育</li> <li>7. 指導上の留意点・環境構成の在り方</li> <li>8. 環境保護の大切さ（連鎖・循環・つながり・相互関係）</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「新子どもと環境」－理論編 小田豊監修（三晃書房）（ISBN：9784783080022）</p> <p>「新子どもと環境」－実技・実践編 小田豊監修（三晃書房）（ISBN：978478308039）</p> <p>「子ども環境から考える保育内容」大橋喜美子・三宅茂夫編著（北大路書房）（ISBN：9784762826917）</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	知的好奇心のある意欲的な学びの姿が見られるか。自分の考えをシートにまとめることができるかを基準とする。
課 題	20%	授業中に提出を求められた課題を基準とする。
そ の 他		
単位認定試験	60%	授業の内容を踏まえ、保育者を目指す上での体験を生かし、本質に根ざした論文を書くことができるかを基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと言葉	1単位	スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

乳幼児期の言葉の発達過程及び、保育者の言葉の在り方を理解することを目的とします。また、その言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話聞く姿勢などについても取り込みます。

#### 《到達目標》

1. 乳幼児期の言葉の獲得過程を理解できるようになります。
2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになります。
3. こどもの手本となる保育者の言動の在り方を認識し、理解できるようになります。
4. 乳幼児の一番身近な存在である母親の言葉掛けから学ぶことで、言葉を引き出す言葉掛けの在り方を理解できるようになります。
5. 実践を通して言語教材が持つ意義を認識し、理解できるようになります。

### 授業の概要

乳幼児期の言葉の発達やその仕組み、こどもへの先達となる保育者の言葉の在り方、姿勢などについて学習を深めるとともに、言語教材を使用しでの取り組みから、文字への興味、言葉の持つ楽しさなどを探求し、言葉を獲得するとはどういうことなのかを解説します。

### 授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 言葉とは何か 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと
2. 領域「言葉」と他の領域の関わり
3. 乳幼児期の言葉の発達過程 0歳～5、6歳
4. 母親とのかかわり、母親の言葉掛けから学ぶ 保育者とのかかわり、保育者の言葉の在り方
5. 言葉の遅れとは
6. 「言葉」と小学校 聞くこと、話すこと 自己表現としての言葉
7. 言語教材とは 言語教材としての絵本、意義、選択眼、種類
8. 文字なし絵本を活用してのお話づくり (グループ学習)

### テキスト

- 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)  
「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)  
プリント(スクーリング教材)

### 参考書・参考資料等

- 「子どもとことば」岡本夏木著(岩波新書)(ISBN:9784004201793)

### 学生に対する評価

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	10%	姿勢、意欲、発表等により評価します。
課 題	10%	テーマに沿った内容が簡潔にまとめられていること。
そ の 他	20%	文字なし絵本によるお話づくり。 ・年齢に合わせた言葉を使用して制作されていること ・時間内でお話が完成すること ・受講生の前で発表できること
単位認定試験	60%	出題について適格に解答されていること(暗記ではなく各人が受け取った内容、考えが述べられていること)
特 記 事 項	上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもとリズム表現	1単位	スクーリング
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識をも合わせて習得する。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現からその理論と実践を学習し、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。</p>		
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「表現」についての基本的な考え方 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」（特にリズム表現（含身体表現））の位置づけと設定の理解</li> <li>2. 身体表現① 歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基本リズムパターンの理解と応用</li> <li>3. 身体表現② 人間が行う基本的動作の実践</li> <li>4. 音楽表現・身体表現 基本的動作をもとにした童謡やわらべうたへの振付</li> <li>5. 音楽表現 楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の制作</li> <li>6. 言語表現（イメージと動き、言葉） オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）を動きや言葉で表現する</li> <li>7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助 絵本のストーリーを基にした表現実践を通しての考察</li> <li>8. リズム表現 オリジナルリズム遊びの創作 実践を通しての考察 その発表と振り返り</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもとリズム表現 スクーリング教材」  「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「1～5歳のかんたんリトミック」神原雅之著（ナツメ社）（ISBN：9784816354083）  「リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選」神原雅之編、井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰著（明治図書）（ISBN：9784187700168）  「乳幼児のダンスABC」猪崎弥生・山田悠莉著（一二三書房）（ISBN：9784891991524）</p>		

学生に対する評価

領域	割合	評価基準
受講態度 単位認定試験	80%	確認テスト、授業態度、授業内発表により総合的に評価する。
課題	20%	事前課題により評価する。
その他		
特記事項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 ※事前課題の提出がスクーリング受講必須条件です。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>こどもと造形表現Ⅰ</b>	1単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、こどもの発達過程と造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。</p>		
<b>《到達目標》</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。</li> <li>3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>乳幼児における表現活動の大切さと、こどもの発達過程を基盤とした造形的な表現の特徴を理解する学習をします。実際に材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材を通じて、手の動きによる描写や造形、描画材の特徴の理解及び表現技法の習得と活用、素材を用いた立体物や玩具等の製作体験を交えながら、実践での造形教育活動を行うにあたり、環境構成を踏まえた指導計画案の作成や、援助のあり方についての知識を関連づけながら学習を深めます。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの表現について</li> <li>2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「感性」と「表現」について</li> <li>3. 乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について</li> <li>4. えがく領域の環境づくりと指導・援助について</li> <li>5. つくる領域の環境づくりと指導・援助について</li> <li>6. 造形あそびの環境づくりと指導・援助について</li> <li>7. 教材研究、指導計画と教材、及び保育内容の課題について</li> <li>8. 保育内容の指導法「表現」の課題について</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもと造形表現Ⅰ」（配本テキスト）  「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>市販の造形表現に関する書籍等</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>こどもと言語表現</b>	1単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもたちの生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などを理解し、豊かに育ちゆくこどものために好ましい文化の在り方を理解することを目的とする。</li> <li>2. 保育現場で使用される文化財の中で、言語に関わる教材を取り上げ、それらがこどもの生活の中で経験と深く関係していることを目的とする。</li> </ol>		
<b>《到達目標》</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵本、紙芝居、劇遊びなど保育現場で使用されるこどもの文化財の持つ意義が理論的に理解できる。</li> <li>2. 保育の現場で使用される文化財についてその内容及び保育技術が獲得できるようにする。</li> <li>3. 絵本、紙芝居等からこどもの情緒を豊かに育てるこの意義・意味を認識できる。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>理論を踏まえた上で、保育の場において役に立つ技術を身に付けることと、こども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野に入れ学習を行う。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. &lt;こどもと文化のかかわり&gt;意義、歴史、内容、成長・発達と遊び、玩具</li> <li>2. &lt;伝統文化1&gt;折り紙の意義、折り紙の基礎</li> <li>3. &lt;伝統文化2&gt;五節句の歴史、意義</li> <li>4. &lt;絵本1&gt;こどもの絵本、絵本の種類</li> <li>5. &lt;絵本2&gt;絵本の選び方、読み聞かせの方法と留意点</li> <li>6. &lt;紙芝居&gt;歴史、特徴、作成の仕方</li> <li>7. &lt;お話&gt;意義、選び方、歴史、語り聞かせの方法と留意点</li> <li>8. &lt;お話&gt;各国の作品、特徴</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもと言語表現」(配本テキスト)  「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)  「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
特になし		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと音楽表現	2単位	スクーリング
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p><b>【到達目標】</b>            保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする。</p> <p><b>【テーマ】</b>            保育内容にそってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成を育成することをテーマとする。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身につける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は各自の習得度に応じた個別指導を行う。</p>		
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション                ピアノ実技およびソルフェージュのレッスン授業としてのガイダンス</li> <li>2. 第一教程では合理的なピアノ奏法を学ぶ                個々の習得度を考慮した練習曲をテキストより選び学習する（グループレッスン）</li> <li>3. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第一教程課題曲の形式など楽曲構成にも注目し学習する（グループレッスン）</li> <li>4. 課題曲の学習（グループレッスン）</li> <li>5. 発表会形式によるプレテスト（ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く）</li> <li>6. 第二教程では指の交差、ポジション移動の習得をする                テキストより練習曲を選び学習する（グループレッスン）</li> <li>7. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第二教程課題曲の形式など楽曲構成にも注目し学習する（グループレッスン）</li> <li>8. 課題曲の技術的な問題点の練習法（グループレッスン）</li> <li>9. 課題曲の学習（グループレッスン）</li> <li>10. 発表会形式によるプレテスト（ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く）</li> <li>11. 第三教程では様々な国や時代の作曲家による楽曲も学習することにより表現の幅を広げる（グループレッスン）</li> <li>12. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第三教程課題曲の形式など楽曲構成にも注目し学習する（グループレッスン）</li> <li>13. 課題曲の技術的な問題点の練習法（グループレッスン）</li> <li>14. 課題曲の学習（グループレッスン）</li> <li>15. 発表会形式によるプレテスト（ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く）</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもと音楽表現」（配本テキスト）            「こどもと音楽」（配本テキスト）            「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）            「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）            「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「新音楽辞典」音楽之友社編・発行（ISBN：9784276000131）</p>		



学生に対する評価

領域	割合	評価基準
受講態度	20%	保育者という専門職を目指す者として、その学ぶ姿勢が明確な目的意識を持ったものであったかを基準とする。
課題		
その他		
単位認定試験	80%	保育内容に沿ったこどもの音楽表現活動を援助できる技術と知識の習得が出来ていたかを基準とする。
特記事項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと造形表現Ⅱ	1単位	スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。

#### 《到達目標》

1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できることを目標とする。
2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。
3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。

### 授業の概要

乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をします。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深めます。

### 授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 表現領域、幼児造形表現の学習について
2. 造形教育の思想と指導法の推移について
3. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域について
4. こどもの発達段階における表現の特徴と指導・援助について
5. 教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく）
6. 教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる）
7. 教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび）
8. えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）とまとめ

### テキスト

- 「こどもと造形表現Ⅰ」（配本テキスト）
- 「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト）
- 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）
- 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

### 参考書・参考資料等

市販の造形表現に関する書籍等

### 学生に対する評価

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	造形表現活動における教材研究及び指導・援助の方法について、意欲をもって取り組む姿勢であるかを基準とする。
課 題		
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『表現』領域の「ねらい」と「内容」における基礎的知識及びこどもの発達過程に応じた教材・用具の取り扱いや環境構成、指導・援助のあり方について論じられているかどうかを基準とする。</li> <li>・こどもの発達過程を踏まえた教材研究とそれに伴う作品製作及び発表内容（表現意欲）を基準とする。</li> </ul>
特 記 事 項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授業科目名	単位数	学習形態
<b>教育方法論</b>	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、幼稚園教諭として必要な資質を養う。</p>		
<b>《到達目標》</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義、意義、守備範囲などの概念についての基本的知識を身につける。</li> <li>2. 教育方法の歴史的展開について理解する。</li> <li>3. 授業についての概要を知り、学習指導の形態と方法について理解する。</li> <li>4. 教育技術の革新について理解するとともに情報機器を効果的に活用できる。</li> <li>5. 生徒指導の原理と方法及びその実際について知り、学習指導と生徒指導のかかわりについて理解する。</li> <li>6. 幼児の発達と幼児教育（保育）の方法について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>教育方法とは何か。その定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義・意義と守備範囲</li> <li>2. 教育方法の歴史的展開①（西欧の教育方法）</li> <li>3. 教育方法の歴史的展開②（近・現代の教育方法）</li> <li>4. 教育方法の歴史的展開③（日本の教育方法）</li> <li>5. 教育技術の革新と情報機器の活用</li> <li>6. 教材・教具</li> <li>7. 教育課程の構成原理と分類</li> <li>8. 授業の理論と授業の設計</li> <li>9. 授業分析</li> <li>10. 生徒指導</li> <li>11. 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法</li> <li>12. 近代以降の幼児教育（保育）方法</li> <li>13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領</li> <li>14. 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容</li> <li>15. 教育方法の課題と展望</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「教育方法論」（配本テキスト）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）  「幼稚園教育要領解説」（フレール館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「小学校学習指導要領（解説書含む）」</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教 育 相 談	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育士、教員などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行うことである。このような働きかけを通して、子どもの持つ悩みや問題の解決を援助し、さらにはその子どもの望ましい生き方・在り方や人格の成長を目指していくことである。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。</p>		
<b>〈到達目標〉</b>		
<p>カウンセリングの基本態度「共感的理解の態度」「受容的・肯定的尊重の態度」「純粋性・自己一致の態度」を養い、心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。また、カウンセラーとしての望ましい人格特性として、①「自己を確立している人」②「自己を理解している人」③「権威主義的でない人」④「感受性が高く、しかも情緒的に安定している人」を目指す。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>教育相談の究極的な目的は、子どもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における教育相談に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導（生徒指導）、しつけ、学習適応、進路指導等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度を養い、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の基本 教育相談の概要</li> <li>2. 教育相談の基本 カウンセリングの基本</li> <li>3. 教育相談の基本 カウンセリングにおける共感的理解</li> <li>4. 教育相談と心理アセスメント</li> <li>5. 子どもの自己理解を進める技法①子どもの自己表現と自己理解の発達</li> <li>6. 子どもの自己理解を進める技法②自己理解の技法</li> <li>7. 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド（実際のカウンセリングと教師の行う教育相談の違いを理解する）</li> <li>8. 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド（教師の行う教育相談の理解を深める）</li> <li>9. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との教育相談</li> <li>10. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との教育相談</li> <li>11. 教育相談の実際（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害）</li> <li>12. 教育相談の実際（不登園・不登校といじめ）</li> <li>13. 教育相談の実際（虐待、非行）</li> <li>14. 教育相談と家庭・学校・地域との連携</li> <li>15. 教育相談の課題と対応（教育相談の担い手）</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「教育相談」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」及び解説書</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
乳 幼 児 保 育	2 単 位	レポ-ト・科目試験・スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

乳幼児の発達を理解し、保育者として必要な援助の方法や技術を身につける。

#### 《到達目標》

1. 乳幼児保育の理念と歴史の変遷及び役割の学びを通して、現代の保育と関連づけ、文章で表現できる。
2. 乳幼児の発育・発達を踏まえた保育、生活や遊びの援助について具体的な学びの中で実践力を身につける。

### 授業の概要

乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。

人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育支援の習得を目指す学びを進めていく。

### 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

#### 【通信】

1. 乳幼児保育とは
2. 乳幼児保育の歴史、背景と制度
3. 現代社会と乳児、乳幼児保育の場
4. 乳幼児の発達と保育内容(1)
  - ・ 6 か月未満児
5. 乳幼児の発達と保育内容(2)
  - ・ 6 か月から 1 歳 3 か月未満児
6. 乳幼児の発達と保育内容(3)
  - ・ 1 歳 3 か月から 2 歳児
7. 乳幼児保育における保護者との関係

#### 【面接】

1. 乳幼児保育の現状
2. 乳幼児の生活と遊び、環境づくり
3. 乳幼児の理解、援助の実際
4. 集団保育における安全と健康
5. 乳幼児保育の発達と保育内容
6. 保育課程に基づく指導計画
7. 乳幼児保育における連携と地域子育て支援
8. 乳幼児保育の課題

### テキスト

「乳幼児保育」(配本テキスト)

「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考書・参考資料等

特になし

### 学生に対する評価

#### 【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

#### 【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	30%	受身でなく意欲的に授業に取り組んでいるかを基準とする。
課 題	20%	授業中に提出を求められた課題を基準とする。
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	50%	授業で取り扱った内容に加えて自分の意見を述べられているのかを基準とする。
特 記 事 項	上記 3 領域の配分割合により 100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
社会的養護内容	1単位	スクーリング
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。 2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。 3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。 5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。		
<b>授業の概要</b>		
望ましい保育者となるために、社会的養護の内容（処遇等）に関する基本的な知識および技術について学ぶ。		
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業		
1. オリエンテーション ・授業の概要と受講の心構え ・保育士等の倫理及び責務 2. 児童の権利擁護 ・児童の権利の歴史 ・児童養護の定義と体系 3. 社会的養護の実施体系 ・基本理念と現状及び今後の展望      ・仕組み ・里親制度の特性及び実際とその課題 4. 児童福祉施設（社会的養護施設） 5. 児童を取り巻く環境の変化 6. 虐待問題 ・虐待の増加      ・虐待の定義      ・虐待対応とその課題 7. 児童養護施設 （講義）・入所理由・処遇上の留意点・施設の役割と施設養護の課題 （演習）・生活場面における児童の行動とその対応のロールプレイ ・自立支援計画表の作成 8. 虐待問題を考える ・虐待に関するビデオ鑑賞（観賞メモの作成とグループ討議）		
<b>テキスト</b>		
「保育所保育指針解説書」（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）		
<b>参考書・参考資料等</b>		
保育者養成シリーズ『社会的養護内容』（一藝社）千葉茂明編著（ISBN：9784863590700）		
<b>学生に対する評価</b>		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	30%	授業を妨げる言動なく自ら学ぶ姿勢で受講していることを基準とする。
課 題		
そ の 他		
単位認定試験	70%	授業内容を理解し、自身が目指す専門職人としての保育者像がしっかりと述べられている事を基準とする。
特 記 事 項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教育実習事前・事後指導	1単位	事前スクーリング・事後レポート

### 授業の到達目標及びテーマ

実習に向けて、実習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。

1. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 保育者の専門性と職業倫理について学ぶ。
3. 実習の具体的な進め方を知る。
4. 幼児理解や教師の援助の方法・環境構成等について学び、指導案を立案する。
5. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。

### 授業の概要

教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等のを習得に努める。

また実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。

### 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

1. 実習の意義と目的、実習生としての心構え
2. 実習の具体的な進め方と内容
3. 子どもを取り巻く様々な環境
4. 幼児理解と保育
5. 観察の視点、実習日誌の捉え方
6. 実習の映像記録から「子どもと出会う感動」「子どもとともに深める」
7. 保育指導案の立案
8. 実習の総括と評価、課題の明確化

### テキスト

「教育実習事前事後指導」(配本テキスト)

「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考書・参考資料等

特になし

### 学生に対する評価

#### 【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。

#### 【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度		
課 題		
そ の 他		
単 位 認 定 試 験		
特 記 事 項	面接授業では(学習のまとめ)も含めて100点満点で評価し、60点以上で合格すれば教育実習申込み条件を1つクリアできます。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>保育実習指導 I</b>	2 単位	事前スクーリング、事前・事後レポート

### 授業の到達目標及びテーマ

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の流れと実習上の留意点を理解する。(含む、マナー等)
3. 実習課題の設定の仕方・保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ。
4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を設定する。

### 授業の概要

実習の意義を理解し、学校での今迄の学びを使いながら、どのように子どもを支援していくかを演習として考えます。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学びます。自分の実習課題を立ててみます。(演習) 保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学びます。

事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定します。

### 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

1. 実習の意義・目的を理解する。
2. 保育所とはなにかを知る、保育所の置かれた現状について知る。
3. 実習の目標や実習課題を決める。(演習)
4. 保育所を構成する職員(どんな人が配置されているか)を知り職種間の連携を知る。
5. 乳児の発達・幼児の発達の特徴を知る。子ども理解をする。喧嘩についても知る
6. 観察実習、参加実習、責任実習とはなにかを学び、併せて観察の仕方を学ぶ。
7. 社会人としてのマナーを知る。報告・連絡・相談(ほうれんそう)についても知る。
8. 緊急時の対応(けが・地震・火事等)を知る。事故を防ぐ留意点を知る。
9. 実習日誌の書き方及び指導計画の立て方について学ぶ。
10. 保育技術の利用の仕方について保育計画と併せて学ぶ。(絵本の読み方、手遊びの仕方、ピアノ等)
11. 児童福祉施設の種別及び特徴について知る。
12. 社会的養護の原理・原則及び支援の留意点について知る。
13. プライバシーの保護と守秘義務について知る。
14. 児童福祉施設その他職種及び他機関との連携の仕方を知る。
15. 事後学習では、実習の総括と自己評価を通して新たな課題や自己目標を明確にする。

### テキスト

「保育実習指導」(配本テキスト)

「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考書・参考資料等

「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著(わかば社)(ISBN:9784907270018)

「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著(わかば社)(ISBN:9784907270094)

### 学生に対する評価

#### 【通信授業】

学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。

#### 【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	10%	自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。
課 題	20%	実習目標、実習課題を立てられたかを基準とする
そ の 他	10%	演習に積極的に参加できたかを基準とする。
単位認定試験	60%	授業全体を通して、必要な事項を学べているかを基準とする。
特 記 事 項	上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	



授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>保育実習指導Ⅱ</b>	2単位	事前・事後レポート
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した、保育所における保育の学びをさらに深め、専門性と実践力を磨くことにあります。保育実習Ⅱでは、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について保育実習Ⅰよりさらに深く学ぶことにより、実践力と専門性を高めます。また、今迄大学で学習した知識をどのように使いながら保育をして行くのかを学ぶことにより、実践力と専門性を高めます。</p> <p>実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にします。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>保育現場での保育実践を、自分の物として身につけられる事をねらいとして、この授業は行われます。他授業で学んだ知識および実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備します。</p> <p>また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身につけ専門性を高められるようにしていきます。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることに、気づいてもらいたいものです。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題（何々について、頑張りたい等の決意）の設定</li> <li>2. 保育知識のおさらいと実習で身につけてきてほしいこと。(1) 子どもの発達、5領域のねらいと現場での視点について、学びます。</li> <li>3. 保育知識のおさらいと実習で身につけてきてほしいこと。(2) 基本的な生活習慣の獲得と保育支援について学びます。</li> <li>4. 保育技術のおさらいと実習で身につけてきてほしいこと。(1) 関係性構築の技術、環境構成の技術について学びます。</li> <li>5. 保育技術のおさらいと実習で身につけてきてほしいこと。(2) 遊びを展開する技術等について学びます。</li> <li>6. 責任実習の指導計画書の立案と実施について</li> <li>7. 研究的自己課題の設定</li> <li>8. 実習上の諸注意とまとめ。(含む、保育者としての倫理、守秘義務、プライバシーの保護)</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「保育実習指導」（配本テキスト）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）（ISBN：9784907270018）</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
保育実習指導Ⅲ	2単位	事前・事後レポート
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設における保育士の専門性について理解する。</li> <li>2. 児童福祉施設に暮らす子供や親について理解する。</li> <li>3. 施設内の連携、他機関との連携について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
施設種により保育士の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設種を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設の施設種を理解する。併せて、それぞれの施設の現状と問題点について知る。</li> <li>2. 社会的養護の現状について知る。</li> <li>3. 自分の行く実習施設種を中心に、実習施設の現状と問題点について知る。</li> <li>4. 児童福祉施設における、子ども支援、親支援の現状について実習Ⅰの経験を振り返りながら考えて見る。</li> <li>5. 社会的弱者支援の基本を知る(1) ノーマライゼーションの意味を理解し、どのような支援を通して実践しているかを知る。</li> <li>6. 社会的弱者支援の基本を知る(2) 人権の保護とエンパワメントについて知る。(人権侵害とはなにかについて、知る)</li> <li>7. 個別支援計画と他機関との連携について知る。</li> <li>8. 事後指導における実習の総括と評価 実習の総括と自己評価を行う。また、自分の保育士としての課題の明確化を行う。</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
<b>参考書・参考資料等</b>		
「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著(わかば社)(ISBN:9784907270094)		
<b>学生に対する評価</b>		
学習状況の確認: レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>幼児専攻</b> 保育・教職実践演習(幼稚園)	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>短期大学の2年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付ける。幼稚園における実践を中心としているが、幼稚園と小学校のつなぎ、保育所と幼稚園の連携等を十分に意識し、教育現場・保育現場で直面する問題に対して対応力を学ぶ。</p> <p>授業は1単位相当を通信授業で実施し、1単位相当をシラバスにより面接授業として行う。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情 ②社会性や対人関係能力 ③乳幼児理解や学級経営力 ④教科・保育内容の指導力 ⑤表現力</p> <p>この5つの目標を実践的で臨床的な課題に対する学生の「表現力」「判断・思考力」「教職基礎知識」等から評価する。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>本授業は、大学での教職に関わる活動や教職課程外での様々な活動を通じて、学生自身の教員として最小限必要な資質能力がどの程度形成されているかについて最終的に確認するものとして位置付く。この授業を通じて、将来、教員になる上で自ら課題を自覚し、その克服と習得に努め教職生活を円滑にスタートできることを目的とするものである。</p> <p>そのことを踏まえ、授業では、学校現場の視点を十分取り入れながら通信教材と演習により、授業内容を構成していく。具体的には、様々な場面を想定した役割演技や、事例研究を通じて子どもを学級集団としてまとめていく手法、現在の教育課題について意見交換等による教員の役割や個々のこどもに応じた対応の必要性、模擬授業を通じて学習指導の基本的事項の習得など実践的指導力の獲得を図る。</p> <p>さらに、教員として必要な使命感、責任感、人間関係調整力等の資質の向上のため、小グループの話し合い、集団討論等、他者との関わりを通じて培っていく。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業		
<b>【通信】</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という職業 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職の意義 (2) 教師に求められる資質と能力</li> <li>(3) 「教師」「保育者」になるー研究・研修の必要性ー</li> </ol> </li> <li>2. 学級経営 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学級と学級経営 (2) 学級担任制の役割 (3) 学級経営案の作り方</li> </ol> </li> <li>3. 特別支援教育の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達障害とは何か (2) 発達障害の諸障害および知的障害の概要</li> </ol> </li> <li>4. 特別支援教育と教師・保育者 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「特別な教育ニーズ」をもつ子どもと保護者への対応</li> </ol> </li> <li>5. 保育における集団の編成 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 異年齢保育 (2) 統合保育</li> </ol> </li> <li>6. 幼児教育の将来的展望 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新しい幼児教育システムの方向性 (2) 新たな幼児教育における集団保育の方向性</li> </ol> </li> <li>7. 幼保小連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼保小連携とは何か (2) 学びと発達の連続性からみた幼保小連携</li> <li>(3) 幼保小なめらかな接続のために</li> </ol> </li> </ol>		

## 【面接】

1. ガイダンス  
授業科目の説明、資料配布、課題の呈示、各授業内容の到達目標の呈示と学生による自己目標の設定、評価方法など
2. 学級経営における臨床場面での教師の対応 I（ロールプレイング）  
日常的に発生する学級内の問題に対してロールプレイングを行い、その後、どう対処すべきか討論する
3. 保育場面での対応（事例研究） 実習経験も含めて課題のある子ども（幼児）の事例研究
4. 集団討論 I 「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」  
多様化に応じた学級づくりと学級担任の役割  
様々な問題に対する組織的対応の必要性
5. 保育設計と模擬保育  
模擬保育計画：実習経験を踏まえて3～5歳児を対象に模擬保育を実施
6. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望
7. 「幼小連携」への応用と連携 子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方  
－保育所・幼稚園・小学校の連携－
8. 学習のまとめ  
・自己の振り返り  
・今後に向けての課題（成長し続ける保育者となるために）

## テキスト

- 「保育・教職実践演習」（配本テキスト）
- 「幼稚園教育要領解説」（フレール館）
- 「保育所保育指針解説書」（フレール館）
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）

## 参考書・参考資料等

- 「保育者論」小林博久・林信二郎編著（樹村房）（ISBN：9784883670673）

## 学生に対する評価

### 【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

### 【面接授業】

領域	割合	評価基準
受講態度	20%	学ぶ意欲や姿勢に、主体性や積極性があるかどうかを基準とする。
課題	20%	授業中における演習シートの内容及びその発表姿勢を基準とする。
その他		
単位認定試験	60%	演習で取り扱った内容について、教育的専門職としての視点から深く論じているかどうかを基準とする。
特記事項		上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 ※「保育・教職実践演習」のための履修カルテ①・②を作成し、スクーリング受講時に必ず持参すること。

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>保育専攻</b> 保育・教職実践演習(幼稚園)	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>短期大学の3年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付ける。幼稚園における実践を中心としているが、幼稚園と小学校のつなぎ、保育所と幼稚園の連携等を十分に意識し、教育現場・保育現場で直面する問題に対して対応力を学ぶ。</p> <p>授業は1単位相当を通信授業で実施し、1単位相当をシラバスにより面接授業として行う。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情 ②社会性や対人関係能力 ③乳幼児理解や学級経営力 ④教科・保育内容の指導力 ⑤表現力</p> <p>この5つの目標を実践的で臨床的な課題に対する学生の「表現力」「判断・思考力」「教職基礎知識」等から評価する。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>本授業は、大学での教職に関わる活動や教職課程外での様々な活動を通じて、学生自身の教員として最小限必要な資質能力がどの程度形成されているかについて最終的に確認するものとして位置付く。この授業を通じて、将来、教員になる上で自ら課題を自覚し、その克服と習得に努め教職生活を円滑にスタートできることを目的とするものである。</p> <p>そのことを踏まえ、授業では、学校現場の視点を十分取り入れながら通信教材と演習により、授業内容を構成していく。具体的には、様々な場面を想定した役割演技や、事例研究を通じて子どもを学級集団としてまとめていく手法、現在の教育課題について意見交換等による教員の役割や個々のこどもに応じた対応の必要性、模擬授業を通じて学習指導の基本的事項の習得など実践的指導力の獲得を図る。</p> <p>さらに、教員として必要な使命感、責任感、人間関係調整力等の資質の向上のため、小グループの話し合い、集団討論等、他者との関わりを通じて培っていく。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業		
<b>【通信】</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という職業 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職の意義 (2) 教師に求められる資質と能力</li> <li>(3) 「教師」「保育者」になるー研究・研修の必要性ー</li> </ol> </li> <li>2. 学級経営 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学級と学級経営 (2) 学級担任制の役割 (3) 学級経営案の作り方</li> </ol> </li> <li>3. 特別支援教育の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達障害とは何か (2) 発達障害の諸障害および知的障害の概要</li> </ol> </li> <li>4. 特別支援教育と教師・保育者 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「特別な教育ニーズ」をもつ子どもと保護者への対応</li> </ol> </li> <li>5. 保育における集団の編成 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 異年齢保育 (2) 統合保育</li> </ol> </li> <li>6. 幼児教育の将来的展望 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新しい幼児教育システムの方向性 (2) 新たな幼児教育における集団保育の方向性</li> </ol> </li> <li>7. 幼保小連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼保小連携とは何か (2) 学びと発達の連続性からみた幼保小連携</li> <li>(3) 幼保小なめらかな接続のために</li> </ol> </li> </ol>		

## 【面接】

1. ガイダンス  
授業科目の説明、資料配布、課題の呈示、各授業内容の到達目標の呈示と学生による自己目標の設定、評価方法など
2. 学級経営における臨床場面での教師の対応 I (ロールプレイング)  
日常的に発生する学級内の問題に対してロールプレイングを行い、その後、どう対処すべきか討論する
3. 保育場面での対応 (事例研究) 実習経験も含めて課題のある子ども (幼児) の事例研究
4. 集団討論 I 「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」  
多様化に応じた学級づくりと学級担任の役割  
様々な問題に対する組織的対応の必要性
5. 保育設計と模擬保育  
模擬保育計画：実習経験を踏まえて3～5歳児を対象に模擬保育を実施
6. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望
7. 「幼小連携」への応用と連携 子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方  
－保育所・幼稚園・小学校の連携－
8. 学習のまとめ  
・自己の振り返り  
・今後に向けての課題 (成長し続ける保育者となるために)

## テキスト

- 「保育・教職実践演習」(配本テキスト)
- 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)
- 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

## 参考書・参考資料等

- 「保育者論」小林博久・林信二郎編著 (樹村房) (ISBN : 9784883670673)

## 学生に対する評価

### 【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

### 【面接授業】

領域	割合	評価基準
受講態度	20%	学ぶ意欲や姿勢に、主体性や積極性があるかどうかを基準とする。
課題	20%	授業中における演習シートの内容及びその発表姿勢を基準とする。
その他		
単位認定試験	60%	演習で取り扱った内容について、教育的専門職としての視点から深く論じているかどうかを基準とする。
特記事項		上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 ※「保育・教職実践演習」のための履修カルテ①・②を作成し、スクーリング受講時に必ず持参すること。

## 参考書の購入について

参考書の購入方法。

- ① 最寄りの書店で取り寄せて購入。(テキスト名、著者、出版社名を伝える)
- ② インターネットのオンラインショップで取り寄せて購入。  
(例： <http://www.amazon.co.jp/>)
- ③ 上記の2点で購入が困難な場合、該当する出版社に直接お確かめください。

